



光村の「国語」

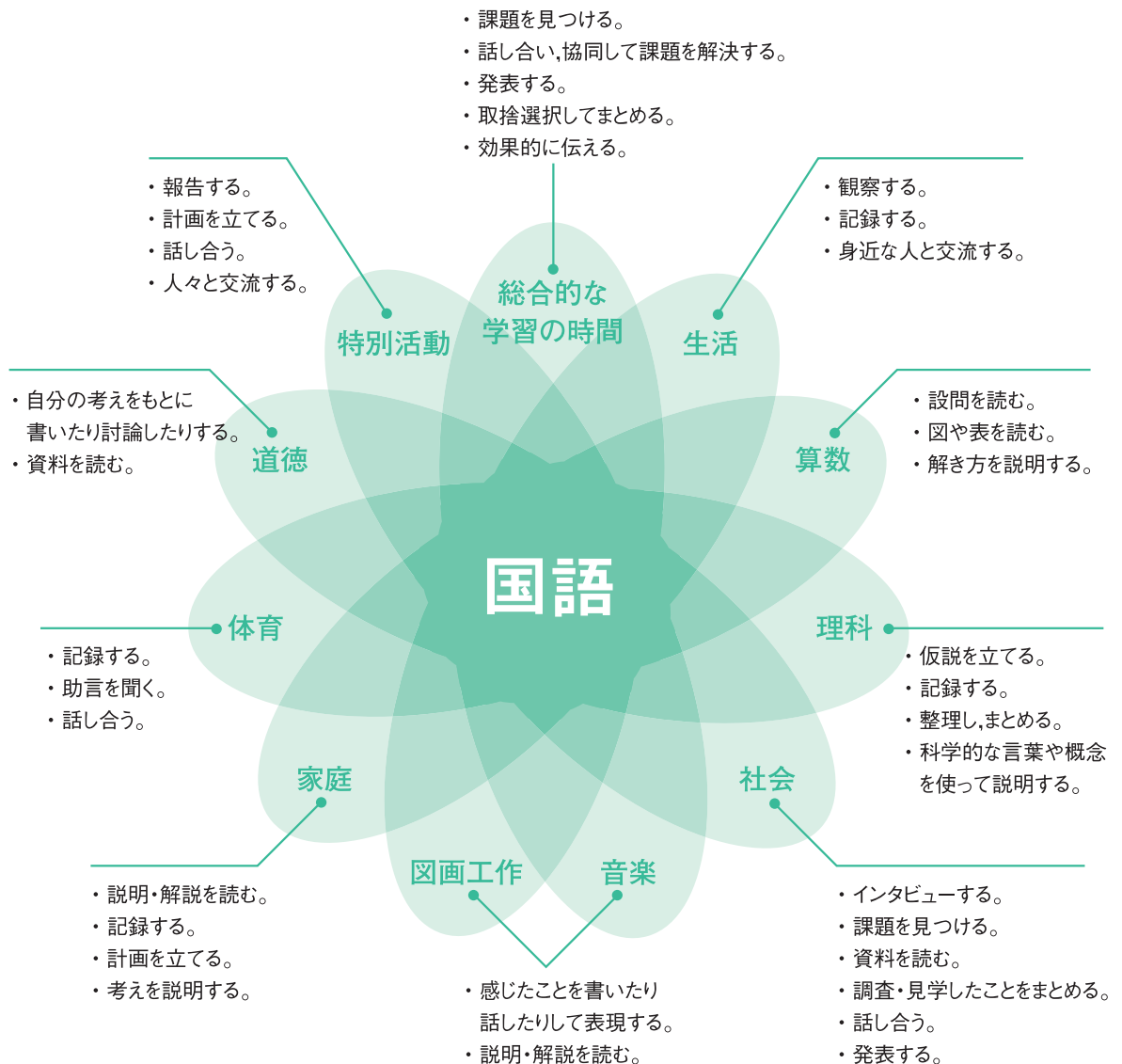
移行期の指導のために

光村図書出版株式会社

他教科に生きる言葉の力

3月に告示された学習指導要領には、「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」【総則 第4「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」2-(1)】という内容が盛り込まれました。

——言語力はすべての基盤との考え方であり、国語科で培った言語の能力を、他教科でも活用することが今まで以上に求められています。



他教科に生きる言葉の力

中核となる国語科

21年度版光村の「国語」では、国語で学んだ知識・技能、活用力が、他教科の学習に生き、学びがつながるように教材を選定したり配列を考えたりしています。



教科書では 5年生上巻「人と『もの』との付き合い方」は、「<資料>ごみ問題ってなあに」をもとに、自分なりの意見を持ち、発表し、自分の考えを文章に書く単元です。ここで身につけた力は、5年生のさまざまな他教科の学習に生きて働きます。

